OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2018年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し

2017年11月8日

オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員　CFO
竹内　康雄

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

No data copy / No data transfer permitted

IFRS任意適用について

- 当社グループは2018年3月期第1四半期連結累計期間の連結財務諸表より、国際財務報告基準（"IFRS"）を任意適用しています。
- 比較分析のため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度の連結財務諸表につきましてもIFRSに準拠して表示しています。

No data copy / No data transfer permitted

ハイライト

上期実績

■ 前年同期比： 増収増益を達成（売上高+6%、営業利益+6%、当期利益+26%）

■ 期初見通し比：為替の円安を追い風に、売上高および各段階利益は計画を上回って推移

通期見通し

■ 前期比： 増収増益の見通し（売上高+6%、営業利益+21%、当期利益+40%）

■ 期初見通し比：主にユーロの為替前提を見直し、売上高および各段階利益の見通しを上方修正

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 2018年3月期 第2四半期決算の主なポイント

- 上期実績
- 前年同期比：増収増益を達成
- 期初見通し比：為替の円安を追い風に、売上高および利益の全項目で計画を上回るなど、好調な決算

- 通期見通し
- 前期比：増収増益の見通
- 期初見通し比：主にユーロの円安を背景に、売上高および各利益の見通しを上方修正

2018年3月期 第2四半期
連結業績および事業概況

No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

2018年3月期 第2四半期実績 ①連結業績

❶ 前年同期比 ：売上高は前年同期比6%増収、営業利益は同6%増益、当期利益は同26%増益
❷ 業績見通し比 ：為替の円安を追い風に、売上高・営業利益ともに見通しを上回る進捗

第2四半期累計実績（4-9月）

（単位：億円）	2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2018年3月期 8月8日公表見通し
売上高	3,487	❶❷ 3,694	+6%	+1%	❷ 3,660
売上総利益 （売上総利益率）	2,276 (65.3%)	2,418 (65.4%)	+6%	+2%	2,460 (67.2%)
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	1,877 (53.8%)	2,035 (55.1%)	+8%	+5%	2,080 (56.8%)
その他の収益および費用等	▲45	▲8	-	-	▲30
営業利益 （営業利益率）	354 (10.2%)	❶❷ 374 (10.1%)	+6%	▲3%	❷ 350 (9.6%)
税引前利益 （税引前利益率）	311 (8.9%)	352 (9.5%)	+13%		320 (8.7%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	236 (6.8%)	❶ 298 (8.1%)	+26%		270 (7.4%)
円／USドル	105円	111円	+6円（円安）		110円
円／Euro	118円	126円	+8円（円安）		115円

6 2017/11/8 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

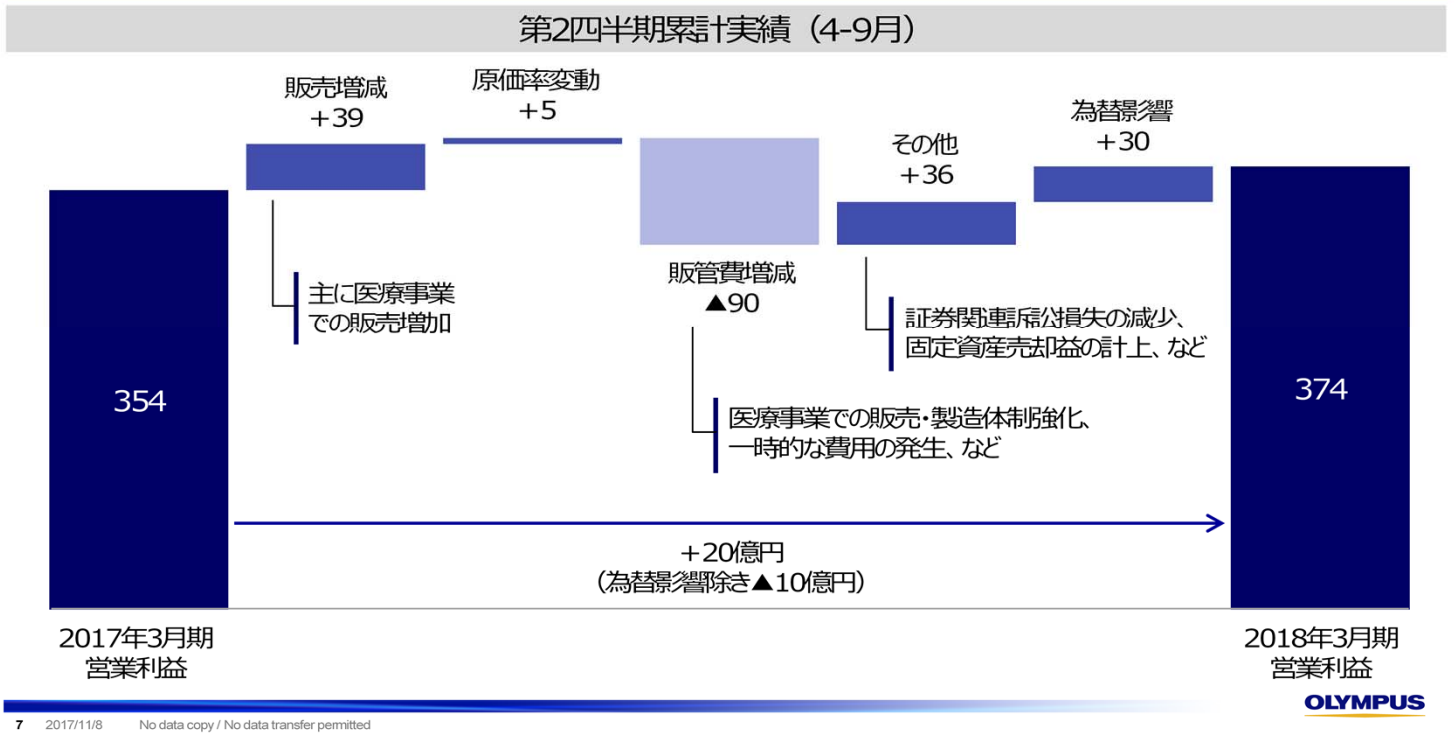
- 2018年3月期 第2四半期 連結実績

- 売上高は前年同期比6%増収の3,694億円
- 営業利益は同6%増益の374億円
- すべての事業が計画に沿って概ね順調に進捗したことに加え、為替の円安による効果も増収増益に寄与

- 当期利益は、金融費用および税金費用が減少したことにより、26%増益の298億円

- なお、営業利益は、為替を除く実質ベースは前年同期比3%減益だが、想定内の進捗

2018年3月期 第2四半期実績 ①連結営業利益増減要因



 No data copy / No data transfer permitted

- 営業利益の主な増減要因

- 販売増減：医療事業を中心に主要3事業での増収により39億円プラスに寄与
- 原価率変動：映像事業において高価格帯のミラーレスや交換レンズなど収益性の高い製品の構成比が上昇、医療事業におけるプロダクトミックスの影響を吸収して改善
- 販管費増減：主に医療事業においてサービス体制や販売体制の強化などにより人員が増加。人件費の増加に加え、第1四半期に発生したM&Aや法務関連の対応費用などの一時的な費用も、販管費が増加した要因
- その他：主に証券訴訟の和解等に伴う損失が前期から減少したことや、固定資産の売却益が発生したことになどにより36億円プラスに寄与
- 為替影響：主にユーロに対する円安効果

2018年3月期 第2四半期実績 ②セグメント別概況

❶ 医療事業は前年同期比6%増収と全社業績を牽引。営業利益は同7%減益
❷ 科学・映像事業は増収、損益改善。前年上期の営業損失は黒字に転換

第2四半期累計実績（4-9月）

（単位：億円）		2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2018年3月期 8月8日公表見通し
医療	売上高	2,718	❶ 2,893	+6%	+2%	2,840
	営業利益	597	554	▲7%	▲12%	550
科学	売上高	404	❷ 446	+10%	+6%	460
	営業利益	▲2	13	+15億円	+12億円	30
映像	売上高	285	306	+7%	+3%	310
	営業利益	▲14	16	+30億円	+29億円	10
その他	売上高	81	50	▲38%	▲39%	50
	営業利益	▲22	▲12	+10億円	+10億円	▲20
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲205	▲197	+9億円	+8億円	▲220
連結合計	売上高	3,487	3,694	+6%	+1%	3,660
	営業利益	354	374	+6%	▲3%	350

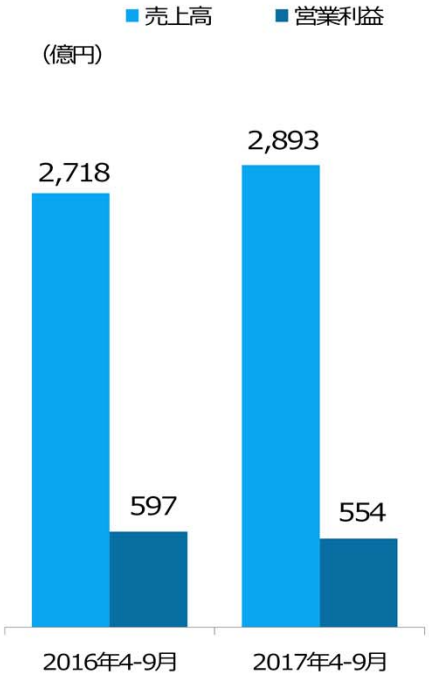
 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の状況

- 医療事業の増収が全社の業績を牽引
- 医療事業の営業利益は人件費や研究費の増加等により減益
- 科学、映像事業は増収となり、前年上期の営業損失からいずれも黒字転換を達成
- その他事業、全社消去も損益が改善

2018年3月期 第2四半期実績 ③医療事業



(単位：億円)	2Q（7-9月）				累計（4-9月）			
	2016年 7-9月	2017年 7-9月	前年 同期比	為替影響 調整後	2016年 4-9月	2017年 4-9月	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	1,410	1,548	+10%	+2%	2,718	2,893	+6%	+2%
内視鏡	799	837	+5%	▲2%	1,526	1,565	+3%	▲1%
外科	444	512	+15%	+7%	853	941	+10%	+5%
処置具	167	199	+19%	+8%	338	387	+14%	+8%
営業利益	343	322	▲6%	▲11%	597	554	▲7%	▲12%
営業利益率	*24.4%*	*20.8%*		*21.4%*	*22.0%*	*19.1%*		*19.1%*

売上高
- ✓ 内視鏡：主力システムがプロダクトサイクル後半（実質マイナス成長）
- ✓ 外科：外科内視鏡の新製品「VISERA ELITE Ⅱ」が欧州を中心に好調
- ✓ 処置具：全地域で順調、特にERCPや呼吸器関連製品の販売が堅調

営業利益
- ✓ プロダクトミックスの変化(内視鏡分野の売上割合が低下)により粗利率が低下
- ✓ サービス・販売体制の強化等の費用支出により販管費が増加

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 医療事業

- 売上高：主力の消化器内視鏡をはじめ、外科および処置具の全分野において増収となり、前年同期比6%増収の2,893億円

- 営業利益：前年同期比7%減益の554億円
- 営業利益率：前年同期比で約3ポイント減の19%
- 主に、消化器内視鏡分野の売上構成比が低下し、プロダクトミックスが変化したことに伴う粗利率の低下に加え、人件費・研究費の増加や第1四半期に発生した一時的な費用、ローナー・デモ関連費用の増加など、販管費の増加が減益要因

2018年3月期 第2四半期実績 ③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率（%） 2017/3 上期	2017/3 下期	2018/3 上期	分野別の状況
消化器内視鏡	日本	▲1%	▲2%	▲2%	• 先進国は、製品サイクル後半 • 日本は新スコープ導入前、北米は一部大型商談の下期へズレた影響、欧州は前年が高成長等で、マイナス成長 • 中国を中心に、アジア・オセアニア地域が堅調
	北米	▲2%	+1%	▲3%	
	欧州	+6%	+6%	▲7%	
	豪亜	+19%	+18%	+8%	
	全地域	+3%	+4%	▲1%	
外科	日本	0%	▲4%	+4%	• 欧州とアジア・オセアニアが堅調。特に、欧州は先行して投入した新製品「VISERA ELITE Ⅱ」が好調 • 北米は、主力製品がサイクル後半の中で、4K外科内視鏡が順調に推移し、前年並を確保
	北米	+3%	+1%	0%	
	欧州	0%	+20%	+10%	
	豪亜	+10%	+10%	+17%	
	全地域	+3%	+5%	+5%	
処置具	日本	+9%	+5%	+8%	• 中国を中心に、アジア・オセアニアが特に堅調 • 全体的に、ERCP*や呼吸器関連の製品が好調 *ERCP：内視鏡的逆行性胆膵管造影
	北米	+13%	+7%	+3%	
	欧州	+7%	+6%	+1%	
	豪亜	+8%	+11%	+21%	
	全地域	+8%	+6%	+8%	

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

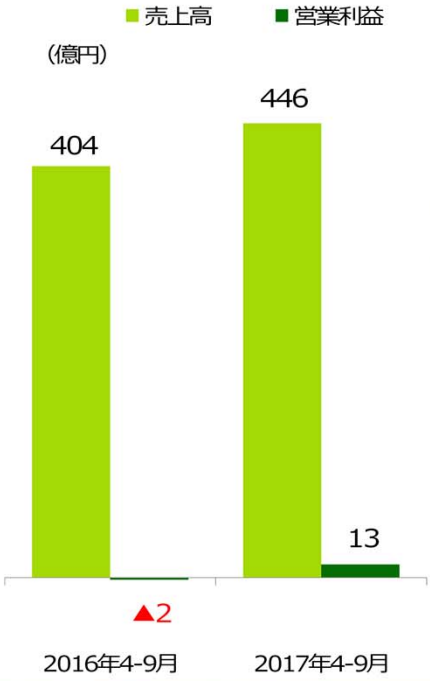
- 為替を除く実質ベースでの分野別の状況

- 消化器内視鏡分野：
- 日米欧の先進国では、主力の内視鏡システムが発売から5年が経過し製品サイクル後半となっている影響に加えて、日本は新スコープの投入前、北米は一部の大型商談が下期にずれ込んだ影響等もあり、先進国ではマイナス成長
- 下期の取り組みで挽回し、全体では年間でプラスの成長を確保できる見通し

- 外科分野：
- 新製品「ビセラ・エリート・ツー」を先行して投入した欧州が好調に推移
- 北米は、外科も主力製品サイクルが後半となる中で、戦略製品である4Kシステムが順調に推移したことで、エネルギーデバイスの落ち込みを吸収して、前年並を確保

- 処置具分野：
- 各地域において市場特性に合った製品が販売を伸ばし、グローバルで8%成長と、引き続き好調に推移

2018年3月期 第2四半期実績 ④科学事業



(単位：億円)	2Q（7-9月）				累計（4-9月）			
	2016年 7-9月	2017年 7-9月	前年 同期比	為替影響 調整後	2016年 4-9月	2017年 4-9月	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	218	246	+13%	+5%	404	446	+10%	+6%
営業利益	9	18	+112%	+102%	▲2	13	+15億円	+12億円
営業利益率	*4.0%*	*7.5%*		*7.7%*	-	*2.8%*		*2.4%*

売上高

- ✓ 資源価格の底入れおよび、昨年投入した新製品等が寄与し、海外を中心に産業分野が増収を牽引。国内では生物顕微鏡が順調
  - ・北米：非破壊検査機器が好調
  - ・欧州：X線分析装置で大口受注を獲得
  - ・中国：スマホ用電子部品検査向けの工業用顕微鏡等の販売が好調

営業利益

- ✓ 増収効果に加え、業務の効率化や費用の適正化により損益が改善
- ✓ 前年上期の営業損失は黒字に転換（前年同期比 で15億円の増益）

OLYMPUS

 No data copy / No data transfer permitted

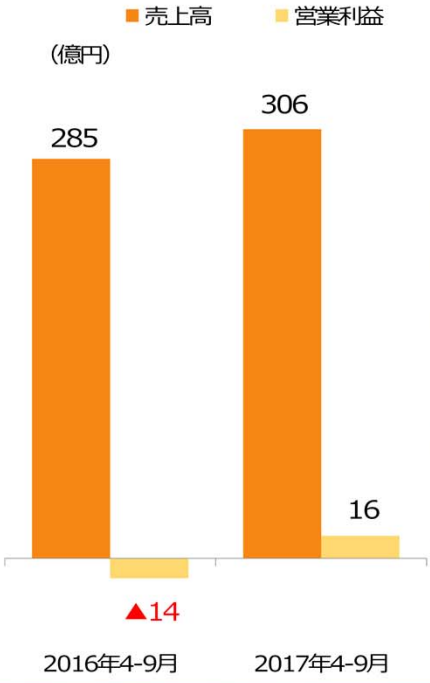
- 科学事業

- 売上高：前年同期比10%増収の446億円
- 営業損益：前年上期の2億円の損失から15億円改善し、13億円の営業利益

- 資源価格の底入れなど外部環境は回復基調となり、また、昨年投入した新製品が寄与したことなどから、工業用内視鏡や非破壊検査機器などの販売が、特に海外を中心に好調に推移

- 営業利益は、増収効果に加え、業務の効率化や費用の適正化を進めた結果、損益が改善

2018年3月期 第2四半期実績 ⑤映像事業



(単位：億円)	2Q（7-9月）				累計（4-9月）			
	2016年 7-9月	2017年 7-9月	前年 同期比	為替影響 調整後	2016年 4-9月	2017年 4-9月	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	132	154	+17%	+8%	285	306	+7%	+3%
ミラーレス	93	117	+25%	+17%	195	233	+19%	+15%
コンパクト	26	24	▲6%	▲13%	62	47	▲24%	▲27%
その他	14	14	▲1%	▲7%	28	26	▲7%	▲10%
営業利益	▲11	7	+18億円	+16億円	▲14	16	+30億円	+29億円
営業利益率	-	*4.7%*		*4.0%*	-	*5.3%*		*5.4%*

売上高

✓ OM-Dシリーズを中心にミラーレス分野が19%増収と好調に推移し、コンパクトカメラが大幅減収となる中で映像事業全体で増収を達成

営業利益

✓ 収益性の高い高価格帯のミラーレス一眼の販売構成比が増えたことに加え、販促活動、研究開発等の適正なコントロールにより収益性が大きく改善

✓ 前年上期の営業損失は黒字に転換し、5.3%の営業利益率を確保（前年同期比で30億円の増益）

OLYMPUS

12 2017/11/8 No data copy / No data transfer permitted

- 映像事業

- 売上高：前年同期比7%増収の306億円
- 営業損益：前期14億円の損失から30億円改善し、16億円の営業利益

- コンパクトカメラは24%の減収と、計画に沿って縮小させる一方で、ミラーレス一眼は19%の増収

- 収益性の高いミラーレス一眼やレンズ等の増収効果に加えて、販促活動、研究開発等を適切にコントロールしたことにより、収益性が大きく改善

財政状態計算書

■ 資本　　：当期利益298億円の計上により利益剰余金が増加
■ 自己資本比率　：利益剰余金が増加したことで44.2%に改善

（単位：億円）	2017年3月末	2017年9月末	増減額
流動資産	5,057	4,992	▲65
棚卸資産	1,253	1,428	+175
非流動資産	4,543	4,727	+184
有形固定資産	1,597	1,679	+82
無形資産	759	785	+26
のれん	956	1,029	+74
資産 合計	9,600	9,719	+119

	2017年3月末	2017年9月末	増減額
流動負債	2,865	3,004	+139
社債及び借入金	688	896	+208
非流動負債	2,774	2,409	▲365
社債及び借入金	2,172	1,729	▲442
資本	3,962	4,306	+344
自己資本比率	*41.1%*	*44.2%*	*+3.0pt*
負債及び資本 合計	9,600	9,719	+119

有利子負債：2,626億円（2017年3月末比▲234億円）

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 財政状態

- 自己資本は、当期利益298億円の計上により、前期末から344億円増加し、4,306億円

- 自己資本比率は、借入金の返済等により有利子負債を234億円減少させた結果、前期末比で3ポイント改善し44.2%

- 棚卸資産は175億円増加しているが、これは主に為替による影響と、医療事業においてBCP対応等の在庫を戦略的に積み増しているため

連結キャッシュフロー計算書

■ FCF： ISM社*買収により87億円支出した一方で、土地建物売却などによる収入により、プラスの129億円
■ 財務CF：公募債としては21年ぶりとなる社債発行（100億円）

第2四半期累計実績

（単位：億円）	2017年3月期	2018年3月期	増減
売上高	3,487	3,694	+207
営業利益	354	374	+20
営業利益率	*10.2%*	*10.1%*	*▲0.1pt*
営業キャッシュフロー	421	426	+5
投資キャッシュフロー	▲345	▲297	+47
フリーキャッシュフロー	76	129	+53
財務キャッシュフロー	▲232	▲347	▲115
現金及び現金同等物期末残高	1,387	1,813	+426
減価償却費	242	255	+13
設備投資額	301	306	+5

 No data copy / No data transfer permitted

*Image Stream Medical社。2017年6月買収完了。

OLYMPUS

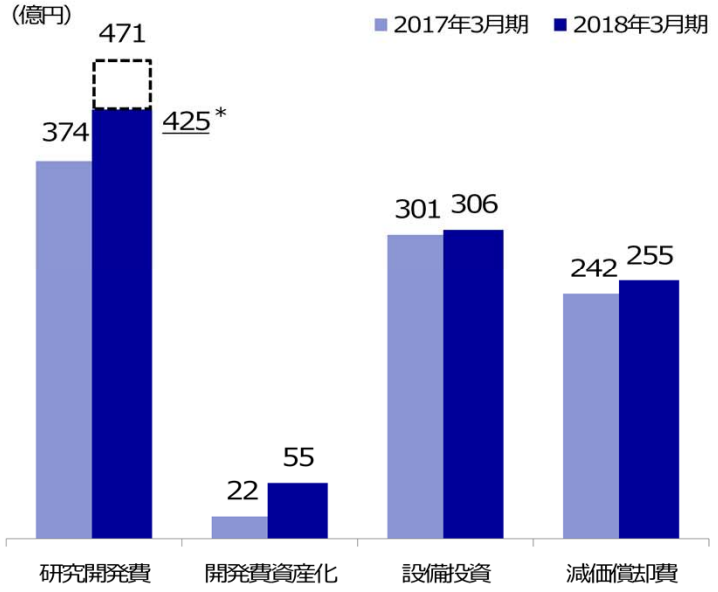
- キャッシュフローの状況

- 営業キャッシュフロー：医療事業を中心とした事業活動からの利益を中心に426億円
- 投資キャッシュフロー：Image Stream Medical社の買収に伴い87億円の支出があったが、固定資産の売却などによる収入等により、前年同期から47億円改善
- フリーキャッシュフロー：前年同期比53億円増加の129億円

- 財務キャッシュフロー：今年9月に公募債として21年ぶりとなる社債を発行。社債発行による収入や手元資金等で有利子負債約550億円を返済

投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

第2四半期累計実績（4-9月）



*全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース

当期の主な研究開発成果

VISERA ELITE Ⅱ対応
外科手術用3D内視鏡

超拡大内視鏡「Endocyto」

4K 3Dビデオ技術搭載の
手術用顕微鏡システム
「ORBEYE」

当期の主な設備投資

Olympus Korea Medical Training
& Education Center

Olympus NDT Canada
(new office and manufacturing complex)

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 研究開発費、設備投資、減価償却費の状況

- 研究開発費：当期から費用の発生基準をグローバルで統一した影響が46億円あり、実質は425億円。医療事業を中心に約50億円増加。主に中計後半で投入を予定している次世代内視鏡システムの開発など

- 開発費の資産化：前年同期比で約30億円の増加となる55億円

- 設備投資：上期はほぼ前年並み。年間では医療事業を中心に約100億円増加する見通し。今年10月に、韓国でトレーニングセンターを設立したほか、カナダの非破壊検査機器の開発製造拠点を拡充。加えて、欧州における製造サービス拠点の再開発や、ベトナムでの処置具の製造拠点の拡充等、海外を中心に強化を進めていく計画

- 減価償却費：前年同期比で約10億円の増加となる255億円

2018年3月期 通期業績見通し

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

通期見通し ①連結業績

- 主にユーロの為替前提を見直し、売上高および各段階利益を上方修正
- 為替影響を除き、前回公表数値をほぼ据え置き

(単位：億円)	2018年3月期 8月8日公表見通し	2018年3月期 (最新見通し)	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2017年3月期
売上高	7,660	7,840	+180	+2%	0%	7,406
売上総利益 (売上総利益率)	5,050 (65.9%)	5,180 (66.1%)	+130	+3%	0%	4,785 (64.6%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,210 (55.0%)	4,270 (54.5%)	+60	+1%	0%	3,977 (53.7%)
その他の収益および費用等	▲50	▲50	-	-	-	▲96
営業利益 (営業利益率)	790 (10.3%)	860 (11.0%)	+70	+9%	0%	712 (9.6%)
税引前利益 (税引前利益率)	720 (9.4%)	790 (10.2%)	+70	+11%		625 (8.4%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	550 (7.2%)	600 (7.7%)	+50	+9%		428 (5.8%)
EPS	161円	175円				
円／USドル	110円	111円	+1円(円安)			
円／Euro	115円	126円	+11円(円安)			

2018年3月期年間配当

期末配当28円を予定
(変更なし)

17 2017/11/8 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 通期見通し

- 円安が進んだユーロを中心に為替前提を見直し、年間の為替レートは1ドル＝111円、1ユーロ＝126円（第3四半期以降は1ドル＝110円、1ユーロ＝125円）

- 売上高：前回公表から180億円上方修正し7,840億円。前期比では6%増収
- 営業利益：前回公表から70億円上方修正し860億円。前期比では21%増益
- 当期利益：前回公表から50億円上方修正し600億円。前期比では40%増益
- 為替を除く実質ベースでは前回公表値をほぼ据え置き

- 配当：中間配当は実施せず、期末配当として28円を予定（前回から変更なし）

通期見通し ②セグメント別業績

■ 為替前提の見直しにより、医療事業を中心に売上高、営業利益を上方修正
■ 為替影響を除く実質では、主力の医療事業は前回見通しを据え置き

（単位：億円）		2018年3月期 8月8日公表見通し	2018年3月期 最新見通し	増減額	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比
医療	売上高	5,980	6,130	+150	+3%	0%
	営業利益	1,230	1,300	+70	+6%	0%
科学	売上高	950	970	+20	+2%	0%
	営業利益	60	60	-	0%	▲12%
映像	売上高	640	650	+10	+2%	▲2%
	営業利益	10	20	+10	+100%	+13%
その他	売上高	90	90	-	-	▲1%
	営業利益	▲60	▲60	-	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲450	▲460	▲10	-	-
合計	売上高	7,660	7,840	+180	+2%	0%
	営業利益	790	860	+70	+9%	0%

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の業績見通し

- 医療事業：為替前提の見直しにより、売上高を150億円、営業利益を70億円それぞれ上方修正

- 科学事業：為替前提の見直しにより、売上高を20億円上方修正したが、ライフサイエンス分野の事業環境を慎重にみて、営業利益は前回見通しで据え置き

- 映像事業：上期の事業環境を反映して、売上高と営業利益をそれぞれ10億円、上方修正

下期見通し　セグメント別（前年同期比）

■ 下期の見通しは、医療事業が増収増益を牽引

（単位：億円）		2017年3月期 10月-3月	2018年3月期 10月-3月見通し	前年同期比	為替影響 調整後	2018年3月期 8月8日公表見通し
医療	売上高	2,986	3,237	+8%	+7%	3,140
	営業利益	550	746	+36%	+28%	680
科学	売上高	530	524	▲1%	▲2%	490
	営業利益	61	47	▲23%	▲35%	30
映像	売上高	343	344	0%	▲2%	330
	営業利益	15	4	▲73%	▲18億円	-
その他	売上高	59	40	▲32%	▲33%	40
	営業利益	11	▲48	▲59億円	▲59億円	▲40
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲279	▲263	+16億円	+22億円	▲230
合計	売上高	3,918	4,146	+6%	+4%	4,000
	営業利益	358	486	+35%	+21%	440

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の下期の業績見通し

- 医療事業の増収増益が全社の業績を牽引する見通し

- 医療事業の営業利益は、主力の消化器内視鏡分野の売上が下期に拡大することで増益を牽引
- 具体的には、上期にマイナス成長だった日本、北米、欧州において、旧世代システムの更新に向けた販促プロモーションの強化や、スコープのセールスプログラムの強化により販売を加速
- 順調な新興国に加えて先進国でもプラス成長を達成することで、営業増益に寄与
- 外科分野では、高い評価をいただいている新製品「ビセラ・エリート・ツー」が、日本と欧州において販売がさらに拡大する見通し

- その他事業は、主に前期の子会社売却益がなくなること等により約60億円減益

OLYMPUS

Appendix

 No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 第2四半期 ①連結業績

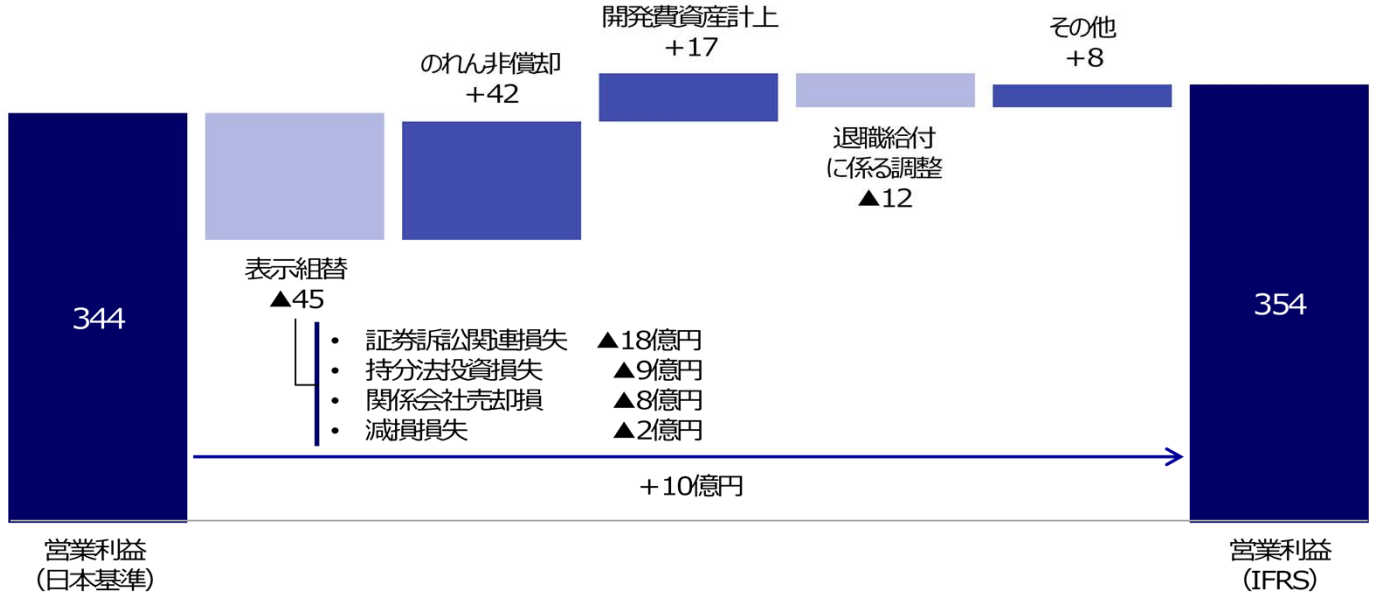
第2四半期累計実績（4-9月）

（単位：億円）	2017年3月期実績（日本基準）	2017年3月期実績（IFRS）	差異
売上高	3,500	3,487	▲13
営業利益	344	354	+11
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	261	311	+51
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	222	236	+14

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 第2四半期 ②営業利益増減分析

第2四半期累計実績（4-9月）

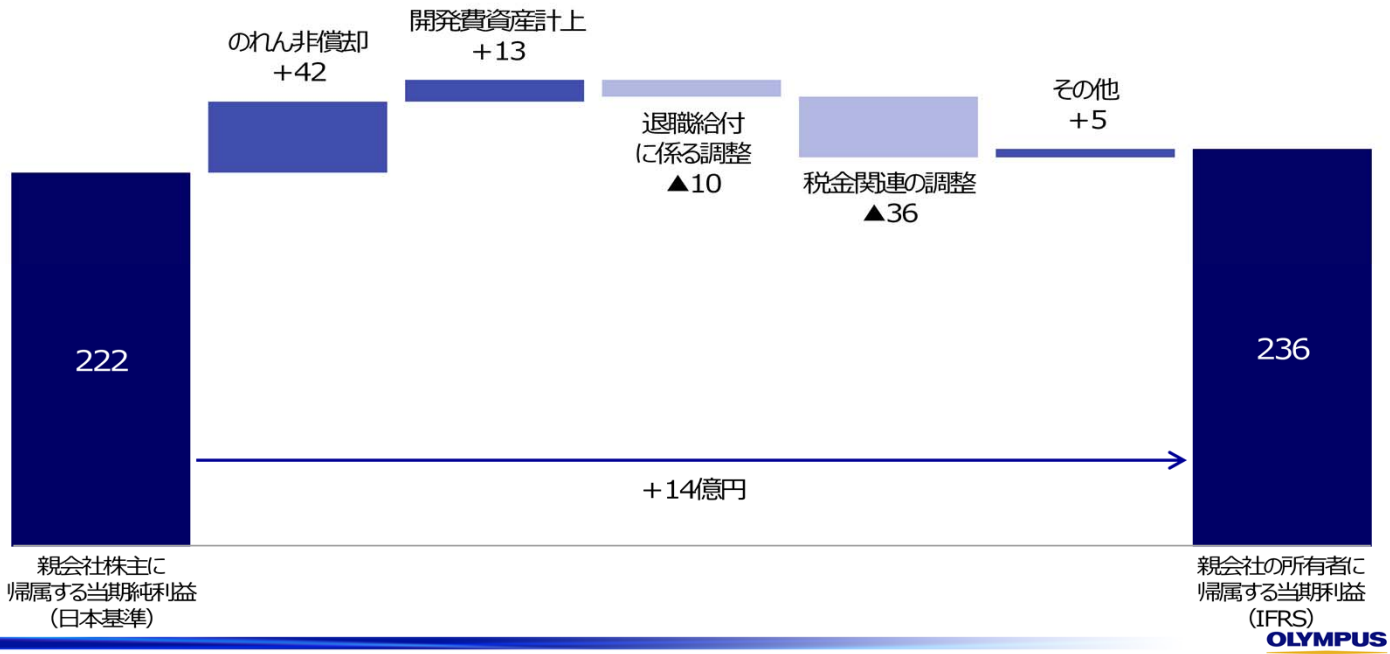


 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 第2四半期 ③当期利益増減分析

第2四半期累計実績（4-9月）



 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 第2四半期 ④セグメント別業績

第2四半期累計実績（4-9月）

（単位：億円）		2017年3月期実績（日本基準）	2017年3月期実績（IFRS）	差異
医療	売上高	2,718	2,718	▲1
	営業利益	566	597	+31
科学	売上高	402	404	+2
	営業利益	▲6	▲2	+5
映像	売上高	298	285	▲13
	営業利益	▲14	▲14	+1
その他	売上高	82	81	▲1
	営業利益	▲20	▲22	▲2
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲182	▲205	▲23
連結合計	売上高	3,500	3,487	▲13
	営業利益	344	354	+11

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ①連結業績

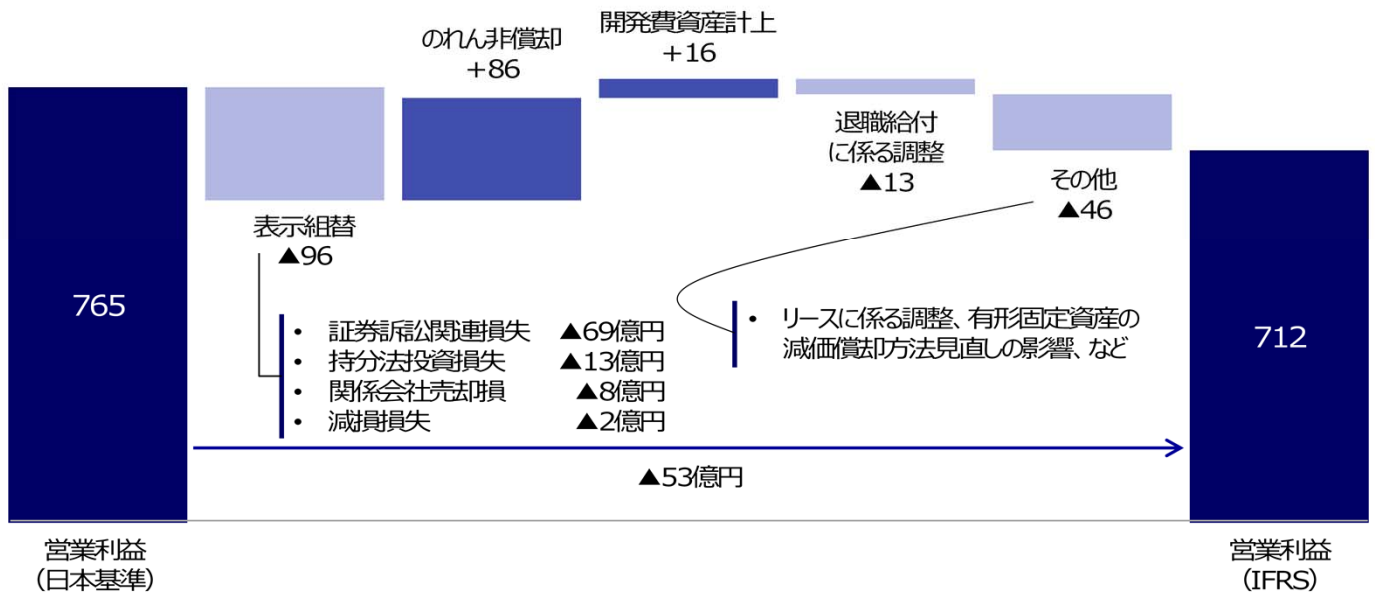
通期実績（4-3月）

（単位：億円）	2017年3月期実績（日本基準）	2017年3月期実績（IFRS）	差異
売上高	7,481	7,406	▲75
営業利益	765	712	▲53
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	817	625	▲192
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	782	428	▲354

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ②営業利益増減分析

通期実績（4-3月）

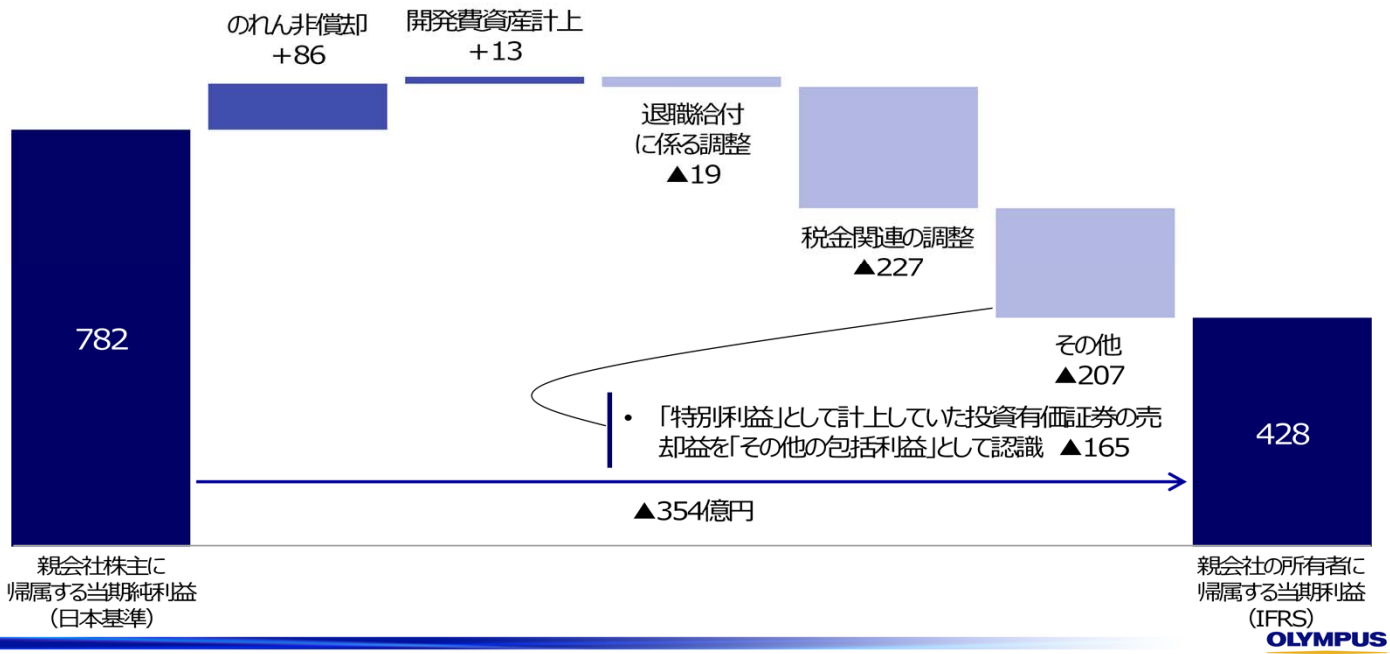


 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ③当期利益増減分析

通期実績（4-3月）



 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ④セグメント別業績

通期実績（4-3月）

（単位：億円）		2017年3月期実績（日本基準）	2017年3月期実績（IFRS）	差異
医療	売上高	5,753	5,704	▲49
	営業利益	1,155	1,147	▲8
科学	売上高	932	934	+2
	営業利益	53	59	+6
映像	売上高	656	628	▲28
	営業利益	5	2	▲3
その他	売上高	140	140	0
	営業利益	▲46	▲11	+35
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲402	▲485	▲83
連結合計	売上高	7,481	7,406	▲75
	営業利益	765	712	▲53

No data copy / No data transfer permitted